

札幌市・ミュンヘン市姉妹都市提携35周年で ドイツを訪問して

札幌市総務局国際部交流課企画係長

齋藤 研吾

札幌市とミュンヘン市は、1972年に両市が各々、冬季・夏季オリンピックの開催地となったことを契機に姉妹都市提携を結び、以後1万3000^キの距離を隔てながらも芸術文化、スポーツ、教育など幅広い分野で交流を続けてきました。2007年は姉妹都市提携から35

周年という節目の年であったため、多くの交流プログラムが実施されましたが、そのハイライトとして昨年9月18日から24日までの7日間、札幌市長団と札幌市議会議員団がミュンヘン市を訪問し、さらなる友好親善に努めてきたところです。

市長団は訪独に際し、札幌市が抱える今日的な行政課題について積極的に意見交換を行い各々の特長を学びあうこと、また、先進施設やイベントなどを視察して今後の市政に反映することを目的として、ミュンヘン市とボン市を訪問しました。私は市長団のメンバーとして札幌市長に随行いたしましたので、以下に市長団の訪問について報告させていただきます。

9月18日(第1日)

午前7時50分新千歳空港発の全日空機で成田空港へ。

同11時35分成田空港発の全日空機

でフランクフルト空港へ。
フランクフルト到着後、マイクロバスでボン市へ移動。

9月19日(第2日)

テーマーIIボン市環境施設(バイオマス暖房施設) 視察

◇場 所IIペンネフェルド・スクールセンター

◇概 要II学校関係者らの歓迎を受け、屋外のバイオマスタンクとその地下にある機械室を視察。以前はガスによる熱供給だったが、再生可能な木質バイオマス(チップ)を利用した熱供給施設を整備し、学校で使用する熱の80%を賄う設計になっている。これにより、年間460トンのCO₂削減に効果があるだけでなく、長期的(稼働後12年程度で黒字化を想定)には経済面のメリットも見込まれるとのことだった。テーマーIIボン市環境局職員との意見交換

◇場 所IIボン市役所会議室

◇概 要II地方行政レベルでできることとして、ボン市では条例により新築建物に自然エネルギーの導入を義務付けている。札幌市からはさつばろエコ市民運動を紹介し、これをスタートにこれから環境教育に力を入れることを伝えた。ボン市からは環境保全に対する自発的な行動を引き出すのが難しいとの発言があり、教育が重要であることを共通認識し



ボン市のペンネフェルド・スクールセンターの担当者からバイオマスの説明を受ける一行



2階VIP席から望むテント内。およそ6000人が会場いっぱいになる＝オクトーバーフェスト会場で



ボンのユネスコでは環境教育について熱心な意見交換が行われた



ボン市環境局職員との意見交換に臨む

た。

テーマ3 〓ボン市フィンガー・ペー

ター副市長表敬訪問

◇場 所 〓ボン市旧市庁舎内

◇概 要 〓ボン市は日本からの観光集客に力を入れていること、さらに地球温暖化をはじめとした環境問題について今後とも情報交換を行っていきたいとの申し出があり、札幌市としても協調したい旨回答した。

テーマ4 〓ユネスコ・ドイツ支部と

の環境教育にかかわる意見交換

◇場 所 〓ユネスコ・ドイツ支部

◇概 要 〓ユネスコ・ドイツは学校やNPO等が行う環境教育の広報等に協力しており、認定した教育プログラムには「ユネスコロゴマーク」の使用を許し、話題づくりに貢献している。また「さっぽろ学校給食フードリサイクル」の活動を紹介したところ、札幌の取り組みをユネスコ・ドイツのホームページに掲載してくれることになり、札幌のエコへの取り組みを世界に発信する好機を得た。

9月20日(第3日)

テーマ1 〓在ミュンヘン日本国総領

事表敬訪問

◇場 所 〓在ミュンヘン日本国総領

事館

◇概 要 〓在ミュンヘン日本国総領

事館を表敬訪問し丸山総領事と会談

した。総領事から姉妹都市交流が国

レベルの外交の基礎となっているこ

と、外務省としても今後、姉妹都市

交流を積極的に支援していく方針で

あることが語られた。

テーマ2 〓札幌市・ミュンヘン市姉

妹都市提携35周年記念式典

◇場 所 〓ミュンヘン市新市庁舎

◇概 要 〓ミュンヘン市ウーデ市長

と3人のミュンヘン市議会代表に迎

えられ、歴史的建造物であるミュン

ヘン市新市庁舎内で開催された記念

式典に出席。姉妹都市として今後ま

すます関係を深めていくことが確認

された。上田市長は今回の訪問につ

いて、環境分野での取り組みを紹介

し合い、さらにミュンヘンの先進的

な事例を習得したい、また、世界最

大のビール祭りであるオクトーバー

フェストからヒントを得て、札幌の

イベントに応用したいと発言。ウー

デ市長からは「札幌市との交流は儀

典の域を超えて、今日的な行政課題

を研究し合うすばらしいもの」との

発言があった。式典の会場は、35年

前に姉妹都市の調印式を行ったのと

同じ部屋が用意されており、我々一

行を感激させた。ミュンヘン市長は

2018年の冬季五輪に立候補する

予定なので協力してほしいと発言。

上田市長も応援したいと応じた。

9月21日(第4日)

テーマ1 〓環境セミナー「ごみ減量

とリサイクルの推進」

◇場 所 〓ミュンヘン市庁舎内会議

室

◇概 要 〓共通テーマである「ごみ減量とリサイクルの推進」について、札幌市の取り組みを上田市長

が、ミュンヘン市の取り組みをミュ

ンヘン市自治体局長がそれぞれ説明

した。札幌市からは①使用済み食用

油のリサイクル②温泉街の生ごみリ

サイクル③学校給食のフードリサイ

クルについて説明し、ミュンヘン市

から「給食の残飯を堆肥化し、生徒

がそれで野菜を栽培し、その実りを

給食に供する取り組みは極めて興味

深く、ぜひ今後の参考にしたい」と

高い評価を得た。

ミュンヘン市からは主にごみの分

別収集の方法や市民の経費負担につ

いて、さらに取捨したごみの再利用

について説明があった。プレゼンの

後、実務者を交えて積極的な質疑応

答が行われ、ミュンヘン市環境公社



華やかな民族衣装に着飾って行進する人々＝ミュンヘン市内で



札幌市のごみ減量・リサイクルについて発表する
上田文雄市長（右端）



特設スタンドで行列を視察する上田札幌市長（2列目右から3番目）。前列のベストがウーデ・ミュンヘン市長（右から2人目）



ウーデ・ミュンヘン市長（左端）から記念品を受け取る上田札幌市長＝記念式典で

などの詳細を聴取した。
テーマ2「生ごみ乾燥・発酵施設の視察」
所「ミュンヘン廃棄物管理事

業社生ごみ処理場

◇概 要「生ごみを収集・貯蔵し、乾燥発酵させることで有機ガスを収集するとともに、残物を堆肥化する施設を見学。堆肥は高品質のものであり、園芸用として使われるほか、肥料として農家でも広く使用されているとのこと。また、この施設では、

今までの方法と違い、非常にシンプルな方式（乾式発酵）で生ごみのガス化を行っていた。国の方針により、生ごみの一次処理としてバイオガスの化が新たに付加されており、今後この方式はドイツ全土で採用される。また、自然エネルギーへの国の優遇制度が充実していることも普及の要因になっているとのことであった。

テーマ3「リサイクルパートナーの視察」
◇場 所「ミュンヘン廃棄物管理事業社リサイクルデパート」
◇概 要「市民が資源ゴミ回収拠点を持ち込んだものの中からまだ利用可能なものを取り出し、無料または安価にて市民に提供するために用意された「リサイクルデパート」を視察。生活用品から家電、家具、レジャー用品などあらゆる種類のものが陳列されており、多くの市民が買い物を楽しむかのように歩いていた。

粗大ごみの減量に寄与し、販売益が運営経費に充てられるなど、自治体にとっても大きなメリットがある。

9月22日（第5日）

テーマ1「オクトーバーフェスト開会式参加」

◇場 所「オクトーバーフェスト会場 ショッテンハーメルテント」

◇概 要「世界最大のビール祭り「オクトーバーフェスト」の開会式に参加し、6000人の収容客で騒然としたテントのなかでオープニングセレモニーを視察。初日だけで約50万人の来場者を見込んでいるという会場は、屋外の通路まで人であふれ、収容数が数千人から1万人の14の大きなテントはどれも満員であった。楽団の音楽に合わせて全員が歓声を上げるなど、参加者が一体となるような会場の演出方法は、祭りの盛り上げ手法として大変参考となるものであり、ミュンヘン市もこの祭りで大きな経済効果を期待しているということであった。

テーマ2「オクトーバーフェスト会場視察」

◇場 所「オクトーバーフェスト会場」

◇概 要「2日間に及ぶ会場内を巡回



最新の生ごみ乾燥施設を視察する札幌市長団と議員団＝ミュンヘン市内で



行列に参加している大型馬車などは地元のビール会社が提供している＝ミュンヘン市内で

9月23日(第6日)
 テーマⅡ民族衣装と射撃の行列の視察
 ◇場 所Ⅱオデオン広場特設席
 ◇概 要Ⅱバイエルン地方の集落ごとに独自の衣装を着け、山車や馬車、楽隊が練り歩くパレードを視察。色とりどりの衣装に身を包んだ60のグループからなる参加者が、2時間以上にわたり、数多くの鼓笛隊の演奏とともに行進し、来年開幕850周年を迎えるミュンヘン市の歴史と多様な伝統を大切に守り続ける

し、環境に配慮したごみ処理の状況などを視察。1991年に「環境に配慮したイベント」を新たなコンセプトに、会場内では、ごみを4種類に分別し、使い捨て容器を一切使わず、皿もデポジション制を取るなどの徹底したごみ減量を進め、ごみの量をそれ以前の半分に減らした。また、省エネを推進するため食器洗いの電源も屋根の上の太陽電池から供給している。さらに1999年からは、食器洗いで使用した水をトイレで再利用して水使用量を減らす(700万リットの節水)など、大規模イベントにもかかわらず、環境に配慮したさまざまな取り組みを行っていた。

今回訪問では、ミュンヘン市と変わらぬ友情を確認するとともに、ミュンヘンをはじめ、ドイツの優れた環境への取り組みを実感することができ、大変有意義なものでした。また、オクトーバーフェストという世界有数のイベントを視察できたことも、札幌市が集客交流都市を目指すうえで、とても貴重な体験であったと思います。今回のドイツ訪問で学んだ多くのことが、今後の札幌市政に生かされていくことでしよう。私自身、姉妹都市交流がはぐくんだ友情と相互理解、国際交流がもたらす新しい刺激といったものを再認識する旅となりました。この体験で得たことを、少しずつでも札幌市に還元していきたいと思っています。

姿勢を感じた。また、オクトーバーフェストに参加する市民は、この地方特有の民族衣装に身を包んだ姿も多く見られ、歴史的な町並みと合わせて、街全体が祭りを楽しんでいるという雰囲気であふれていた。
 この視察後、帰国の途につく。
9月24日(第7日)
 帰国
おわりに
 今回の訪問では、ミュンヘン市と



since1896



sandosanyo

山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

[営業部] 代表電話 (011) 661-7163 FAX. (011) 661-7173
 東京支店 / 電話 (03) 3518-4631 FAX. (03) 3518-4633
 苫小牧営業所 / 電話 (0144) 34-8078 FAX. (0144) 31-2423
 千歳営業所 / 電話 (0123) 26-3555